

教員の資質能力向上に係る特配（CT 特配）活用推進事業報告書

みどり市立笠懸中学校

1 取組の概要

(1) 教員の資質能力向上に係る特配（CT 特配）の指名

教員の資質能力向上に係る特配（CT 特配）に指名については、昨年度、群馬大学教職大学院で研修を行っていた教諭を指名し、研修主任を割り当てた。

CT 特配の活用にあたっては、学力向上コーディネーターや教務主任との連携を図り、校内研修に取り組むこととした。CT 特配の授業時数は 19 時間とした。

(2) 校内研修の充実

今年度の校内研修では、メンター制に取り組んだ。校内研修企画委員会と学力向上対策委員会は、校長・教頭・教務主任・研修主任・学力向上コーディネーター・各学年の研修担当で構成し、会議の時間を校時表に位置付けて、毎週どちらかの会議を行うこととし、時間を確保するようにした。

校内研修では、資質向上研修と授業改善研修、若手メンターチームによる研修の三本立てで行った。

資質向上研修は、若手教員の困り感に焦点を当てた研修とし、主に学年会の中で取り組んだ。授業改善研修は、授業参観週間を設定し、参観シートを活用しながらの授業公開や授業検討会を行った。また、部活動のない時に、若手メンターチームの研修として、主に先輩教員が講師となって若手教員に指導や事務処理、保護者対応等の研修を実施した。



(3) 学力向上対策委員会の充実

学力向上対策委員会では学力向上に特化した内容を中心に取り組んだ。

取り組んだ内容は、学力に関する諸調査の分析や参観シートの検討、授業を参観する際の資料作成、授業公開週間や授業検討会の計画、長期休業中の補習計画等を立案した。

また、家庭学習の充実を図るために、家庭学習やメディアに関わる時間の調査を実施し、学力向上新聞の発行により家庭学習に関する現状報告や対策の啓発を行った。

2 成果と課題

(1) 成果

① 積極的な授業公開と授業研究会の実施

今年度は、以下に示すように、様々な研修を活かして、授業公開をする機会をたくさん設定した。このことで、授業を公開することに抵抗感もなくなり、授業公開以外の場面でも互いに授業を見合う場面が増えた。授業公開と併せて放課後の短い時間の中で少人数での授業検討会を行い、指導についての活発な協議を行うことができた。また、各階にある相談室では、空き時間を活用して、教員が指導について相互に意見を交流する場面が多く見られるようになった。このことが教員の指導力向上に結び付くと同時に、自由に意見を交流できる雰囲気づくりにつながった。



<授業公開の機会>

- ・授業公開週間 23 時間
(内訳) 国語 4 社会 2 数学 6 理科 3 英語 4 音楽 1 美術 1 保体 2
- ・学校訪問時の公開授業 22 時間
(内訳) 国語 2 社会 2 数学 3 理科 3 英語 4 美術 1 保体 3 技術 1
家庭 1 道徳 1
- ・教職大学院による巡回指導 数学 12 時間
- ・特別研修員による授業研究 美術 6 時間

② 教職員のゆとり確保

校内研修企画委員と学力向上対策委員のメンバーを共通にしたことで、学力向上に向けた様々な計画を毎週協議することができた。また、課題を共有した上で会議を進めることができ、効率よく会議を進めるとともに、多忙化の解消にもつなげることができた。また、校内研修企画委員会や学力向上委員会を校時表の中に組み入れることで、確実に開催することができ、放課後の時間を他の校務に充てる時間とすることができた。

③ 若手教員を育てようとする雰囲気醸成

若手メンターチームの結成や若手に焦点を当てた資質向上研修の実施により、学校全体で若手教員を育てようとする意識が高まり、特設された時間以外でも若手教員とベテラン教員が学び合う姿がたくさん見られるようになった。

(2) 課題

① CT 特配の十分な活用

CT 特配として指名した教諭が今年度は教職大学院 2 年目であり、年間を通じて指導案を作成しての実践授業を行う必要があった。このため、CT 特配に指名した教諭の授業を参観することは常に可能となったが、反面、CT 特配に指名した教諭が他の教員の参観指導を行う時間を十分確保出来なかった。CT 特配に指名した教諭による参観指導を、積極的に計画していく必要がある。

② 指導の基本の徹底

今年度は、困り感を大きくクローズアップして研修を行ったが、教師として知っておくべき内容や、授業や生徒指導の基本を徹底する必要がある。今後は、服務規律なども含めて、教師としての在り方の基本を押さえた上で困り感を解消していくことも必要である。

